



鳥越皓之



アトリエ・ワン

と 潟 とい う こと
 潟 であ ら わ す
 と 潟 とい う こと
 潟 を あ ら わ す



柳谷牧子



前田司郎



水と土の芸術祭

Water and Land Niigata Art Festival 2015

第1回シンポジウム



曾我部昌史 photo:Toru Kometani



吉田悠軌

2015年7月19日(日) 午後2時(受付 午後1時30分～) 午後5時30分終了予定

ビュー福島潟 6F展望ホール(第1部、第2部) & 潟来亭(第3部)

新潟市北区前新田乙493 tel.025-387-1491

参加無料 定員150名

お申し込み: 6/28より 新潟市役所コールセンター tel.025-243-4894 (8:00~21:00)

※先着順となります。定員になり次第〆切

新潟の「潟」は、とても特徴的な存在です。

この「潟」が、新潟の自然風土・文化風土としてどのような存在で、その存在感をどのように読み解いていくのか。このことは自然環境との関わりにおいて、私たちが突きつけられている課題ともリンクしています。3.11以降、自然は科学として捉えるだけでなく、文明・文化にとっていかなる存在かということも含めて考えていくべきものとなりました。総合的視点を持って捉えた「潟」を、どのように表現行為につなげていくのか。貴重な自然である「潟」にアートを持ち込むという挑戦的な取り組みを行ってきた水と土の芸術祭2015の独自の取り組みを検証し、多方面から「潟」と「表現」を考えます。

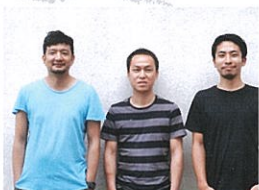
藤野高志/生物建築舎



主催: 水と土の芸術祭2015実行委員会 共催: 「東アジア文化都市2015新潟市」実行委員会 新潟市
お問い合わせ: tel.025-226-2628 水と土の芸術祭2015実行委員会事務局(新潟市水と土の文化推進課内)



<http://www.mizu-tsuchi.jp/>



ドット アーキテクト

新潟をあらわすといふこと 新潟であらわすといふこと

1 第1部：対談
新潟をよみとく
— 新潟環境の民俗学的視座 —

民俗学・社会学からみた「新潟」の存在とは？「新潟」を読み解き、その自然や文化的文脈がいかに表現へとつながるのかを考えます。
出演：鳥越 皓之（社会学者、民俗学者、大手前大学副学長、早稲田大学名誉教授）
曾我部昌史（建築家／水と土の芸術祭2015建築ディレクター）

2 第2部：ディスカッション
新潟であらわす
— 表現と環境保全のはざま —

各新潟で展開した作品をとりあげ、環境の保全と民族文化を活かした表現や地域づくりとの両立について話します。
出演：鳥越 皓之、柳谷 牧子（環境省自然環境計画課専門官）、アトリエ・ワン、ドットアーキテクト、藤野 高志／生物建築舎（以上3組建築家・水と土の芸術祭2015参加作家）
コーディネーター：曾我部昌史

3 第3部：ミニ公演
新潟をあらわす
— 伝承と妄想のつばさ —

舞台や小説、テレビドラマで活躍の五反田団主宰・前田司郎と怪談師・吉田悠軌がくり広げる新潟の「新潟」をベースにしたミニ公演！
出演：前田司郎（「五反田団」主宰）、吉田悠軌（怪談師）

■鳥越皓之 とりこえひろゆき
水に関わる調査を民俗学や社会学の立場から世界の各地で行う。特に環境保全のために、湧き水や井戸、小川などで伝統的な水利用の価値の見直しや提言を行う。専門は社会学、民俗学、環境問題、地域計画。著書に「水と日本人」（岩波書店）、「花をたずねて吉野山」（集英社新書）等。

■アトリエ・ワン
1992年塚本由晴（東京工業大学大学院准教授）と貝島桃代（筑波大学大学院准教授）により設立された建築家ユニット。代表作に宮下公園（東京都）、BMWグッツゲンハイムラポニーニューヨーグ（アメリカ）、カカアコ・アゴラ（ハワイ）等がある。

■ドット アーキテクト
建築家ユニット。家成俊勝、赤代武志により2004年共同設立。2014年に土井亘が加入。大阪・北加賀屋にて分野にとらわれない人々や組織が集まる「もうひとつの社会を實踐するための協働スタジオ」コーポ北加賀屋を拠点に活動。設計、施工のプロセスにおいて様々な人との協働を實踐している。

■藤野高志／生物建築舎 ふじのたかし／いきものげんちくしゃ
1975年群馬県生まれ。建築家。2006年、生物建築舎設立。2013年「天神山のアトリエ」で日本建築学会作品選集新人賞受賞。国内外での展覧会、芸術祭、講演会、絵本・動画制作など幅広く活動。主な建築作品に「鹿手袋の長屋／離れ」、「萩塚の長屋」、「亀沢温泉家族風呂」など。

■柳谷牧子 やなぎやまきこ
水田に依存する魚類であるミヤコタナゴの保全や支笏洞爺国立公園（北海道）の自然保護官を経て、2012-14年までラムサール条約や渡り鳥保全を担当。条約湿地のワズコースの推進、また湿地間の交流や普及啓発といった取組の推進に携わった。現在は海域の生物多様性保全を担当。

■前田司郎 まえだしろう
1977年東京都生まれ。作家、劇作家、演出家、俳優。劇団「五反田団」主宰。「生きてるものはいないのか」にて岸田國士戯曲賞、「夏の水の半魚人」で三島由紀夫賞などを受賞。映画「ジ、エクストリーム、スキヤキ」では原作・脚本・監督をつとめる。2015年NHKドラマ『徒歩7分』で向田邦子賞を受賞した。

■吉田悠軌 よしだゆうき
怪談サークル「とうもろこしの会」会長。オカルトスポット探訪マガジン『怪処』編集長。怪談の収集・語りとオカルト全般を研究し、怪談トークイベント、ポッドキャスト「僕は怖くない」配信などで活動。雑誌にて記事を寄稿しつつ、TVや映画にも出演。著書『放課後怪談部』（六月書房）他。

■曾我部昌史 そがべまさし
建築家・神奈川大学工学部建築学科教授。1995年みかんぐみ共同設立。2001年-06年東京芸術大学先端芸術表現科助教授を経て、2006年より現職。主な作品に「八代の保育園」、「SHIBUYA-AX」、「上原の家」、「ハンガートンネル」、「伊那東小学校」、「Y150はじまりの森」など。

今後のお知らせ

文化・再構築・記憶・今
みずつち座談会 第2回イベント
イ・スギョン × 高晟竣
（本芸術祭参加作家）
（新潟県立万代島美術館主任学芸員）
7/11(土) 午後5時-午後6時30分
NEXT21 1Fアトリウム

みずつち座談会 ふむふむ わいわい
水と土の芸術祭2015のアーティストと、各地で活躍する表現者との座談会式トーク。参加者のみなさんにもどんだん質問や意見をいただき、新潟の文化活動のこれからの考えていきたいと思ひます。

ベースキャンプ（旧二葉中）3F 特別活動室 午後2時-午後3時30分
第1回 7月26日(日) 「表現と“痛み”のむこうに」
高橋 伸行 × 和合 亮一 × 丹治 嘉彦
第2回 8月1日(土) 新潟アート「映像表現と音楽表現の現在」
吉原 悠博 × 福島 諭 × 藤由 暁男
第3回 9月12日(土) 新潟アート「過去と現在そして未来へ」
関根 哲男 × 前山 忠 × 堀川 紀夫 × 佐藤 秀治 × 大倉 宏

新潟のカフェ 福島潟は7/18-8/2の土日にくるよ。
4つの潟をキッチンカーが巡ります！ みずつち限定、新潟食材をふんだんに使ったオリジナルメニューを楽しめますよ。

豊かで健康な食ってなんだろう？
第2回シンポジウム
「水と土の地における米」
9月19日(土) 午後1時30分- ベースキャンプ 体育館
出演 藤沢 周（作家） 伊勢みずほ（水と土の芸術祭2015食おもてなしディレクター）他
コーディネーター

水と土の芸術祭
Water and Land Niigata Art Festival 2015
2015年7月18日(土) - 10月12日(月・祝)
会場／新潟市内全域
メインフィールド：鳥屋野潟 福島潟 佐潟 上堰潟
ベースキャンプ：旧二葉中学校
サテライト：天寿園/いくとびあ食花
作品：56作家・69作品
主催：水と土の芸術祭2015実行委員会
共催：「東アジア文化都市2015新潟市」実行委員会
後援：総務省、経済産業省、関東地方環境事務所、駐新潟大韓民国総領事館、
在新潟ロシア連邦総領事館、中華人民共和国駐新潟総領事館
助成：平成27年度 文化庁 文化芸術による地域活性化・国際発信推進事業、
一般財団法人地域創造、私的録音補償金管理協会 (sarah)